

## 第57回えいが部「あの子を探して」(1999年)

舞台は中国の農村。河北省赤城県のチェンニンパオ村にある水泉小学校のカオ先生が、母親の看病のため、一ヶ月間、小学校を離れることになった。放っておけば、多くの生徒が家庭の事情で学校をやめてしまう。代理として村長に連れてこられたのは、13歳の少女、ウェイ・ミンジ。中学校も出ていないミンジに、面接したカオ先生は心許なさを感じるが、子供たちに黒板を書き写させるだけの簡単なことならできると代理を任せる。報酬は50元。子供を一人も脱落させなければさらに10元。ミンジは、生徒に自習させて教室の外で座っているだけの「授業」を始めるが、うまくいくはずもなく、次々と騒ぎが起こる。特に生徒のホエクーは、隙を見て抜け出そうとしたり、女の子の日記を盗んで騒いだりといつもミンジを困らせていた。そんなある日、そのホエクーが突然学校にこなくなった。病気になった親の代わりに、町に出稼ぎに行ったという。脱落者を出すと報酬が減ってしまうと考えたミンジは、何とか連れ戻そうと策を巡らせるが、町を出るバス代がない。皆で話し合い、レンガを運んで金を稼ぐことになり、生徒たちも一生懸命働いてようやくミンジを送り出す。大きな町へ着くとホエクーは行方知れずだと聞く。彼女はなけなしの金をはたいて紙と筆と墨汁を買い、尋ね人のチラシを貼り出すがらちがあかない。町のテレビ局に行き、涙ながらに訴える。苦難の末、ミンジはホエクーと再会を果たす。

監督： 張芸謀 (チャン・イーモウ)

- ・ 紅いコーリャン 紅高粱 (1987年)
- ・ 上海ルージュ 搖啊搖! 搖到外婆橋 (1995年)
- ・ 初恋のきた道 我的父親母親 (1999年)
- ・ 至福のとき 幸福時光 (2000年)
- ・ HERO 英雄 (2002年)
- ・ LOVERS 十面埋伏 (2004年)
- ・ 単騎、千里を走る。 千里走單騎 (2005年)
- ・ SHADOW/影武者 影 (2018年)
- ・ 悬崖之上 (2021年)

出演 代理の先生：魏敏芝 (ウェイ・ミンジ)

カオ先生 : 高恩満 (カオ・エンマン)

生徒 : 張慧科 (チャン・ホエクー)

チャン村長：田正達 (チャン・ジェンダ)

「あの子を探して」が出来るまで」

「あの子を探して」は心温まる作品だった。スターがキラ星のように出演しているわけではなく、地味で素朴ながらもその筋運びで見せる映画。出ているのもほとんどがプロの俳優ではなく、素人さん。こんな映画をチャンイーモウ監督とその仲間がどうやって作り上げたのかを、その舞台裏から覗き見させてくれるのがこの作品だ。

一本の映画を撮るのには、映画を観ているだけのボクからは想像を絶する苦勞と忍耐が必要なのが手にとるように分かる。とてもじゃないが、生半可な気持ちでは作り上げることが出来ないんだなあ。

もっとも印象に残っているのは、チャンイーモウの言葉「人は研いでいないと、すぐ鈍る。ボクは研いで、研いで、研ぎ続けているから、誰にも負けない」。その凄い自信にも驚いたけれど、それよりも「ああ、ボクは研いでいないなあ」なんて思ってしまった。だからもうすっかりナマクラになっているんだ（ちょっと、反省）。

さらに、チャンイーモウ監督が、どこか暖かみがあり、偉そうにしていない点も印象に残りました。この映画を撮る時点で既に「世界的巨匠」であったにもかかわらず、自らロケハンに走り回り、質素なトレーナーや T シャツで演技を付ける。食事や宿舎だって他の人と同じだ。もっと偉そうにしているても不思議じゃないのに。

ちょっとドキッとしたエピソードは最後にやって来る。「あの子を探して」の成功で、各地をプロモーションや挨拶で飛び回る主演の二人（ミンジとホエクー）を前にして「天狗になるな。勉強を頑張れ」と諭す場面。特にホエクーに対しては「高校に合格するまでは、もう会わない」と言い渡すシーンには迫力がありました。

ボクは「あの子を探して」以外ではこの二人にはまだ出会っていないけど、たくましく（美しく？）成長した二人に再びスクリーンで出会えることを確信しました（「變臉（へんめん）」で主演した少女は映画出演の後に割と悲劇的な人生を歩んだと聞いていただけに、なんだかホッとしました）。